断出来るにちがひない。
アメリカ史の篇別構成は僕の前の米国史（今井先生の名の）がほぼモハンに近いと思ひます。あれよりももつと南北戦争以後、特に世界大戦とニューディール時代を多くする必要があるけれど。（あれは小此木、鈴木（正四）二君からは、説明的すぎると云つて批判されましたが、林健太郎君は力作だとほめてゐるさうです）。
アンナ（英訳が押入れにあつた筈）についてのあなたの感想は、読み方がセツカチすぎるのぢやないかと思はせる。アンナは死ぬ少し前まではまだ〳〵甘い有閑マダム的な要素をぬけ切つてゐない。所がウロンスキーとのさま〴〵な生活努力の中で、次第にアンナの人間的欲求が衝動的なものからのつぴきならぬものへと発展し、彼女の行動の内的秘密が彼女自身にも認識されて来るのです。アンナはさま〴〵の欠陥をもつとはいへ、根本的に現実と妥協し得ない「人間」だが、ドリーはさうでない。アンナはモニュメンタルな形象だがドリーはさうでない。アンナがモニュメンタルである点（彼女の悩みが歴史的悩みと通じ、彼女の方法をまだ持たない斗争（闘）が、歴史的斗争の一つであること）を理解すべきです。ドリーはやはり悩んでゐるが斗争してゐるのでない。彼女はいつでも妥協出来る。アンネットとシルヴィとの対比。
今日午前十一時から出て、日盛りを原宿の三河ヤで塩、石ケンを買つて来ました。うるさいので廿六群の近くへは行かなかつた。今日の食事、朝、ジャガ、豆、ナス油ヤキ、トマト。昼、ジャガ、ナス焼、ムシパン、トマト。夜、ジャガ、大豆、ナスヤキ、トマト。（ムシパンの中へは凡ゆる粉を入れる）。
一日水出ず。三回、下の井戸水を汲んで来る。午後二時の気温摂氏三十二度。午後九時廿八度。島村君へ電話をかけて、みつちやんの様子ききました。調子は順調らしいが、のびさうださうです。その中御見舞したいが、暑いし、電車はこむし、ついオククウ（ク）です。
フクラシ粉を買つておいて下さい。
小笠原に敵艦隊あらはれたと云ふニュースですが、何と云ふ月のよさ。風もオダヤカになりました。この辺は落下傘部隊のおりる可能性がある。
パンツは中々よろしい。二つもいらないから一つかへしませうか。
之から一仕事です。では又明日。皆さんによろしく。僕、余り手紙出しすぎますか。こちらへはいくら来ても大丈夫。
今、露台へ出てみますと、風はオダヤカになつたとは云ひながら、満月の空を白い割合低い雲群がまるでアメリカの大

艦隊か大空軍編隊かのやうに、海の方南西から驚くほどの早さで押しよせ、とび去つてゐます。地上の黒い木立の葉ずれか、まるでそれらの雲群の飛翔の音かと思はれるほどで、冴えわたりまばゆいばかりに輝く月と云ひ、美しい星々と云ひ、それらの白い雲群の果てしのない飛翔と云ひ、いつまでも見飽きない壮美です。だがその飛翔の物々しさが、戦局を象徴するやうで威圧的です。この追ひ風に乗つて、この明月にくまなくさらされた帝都を、今夜など空襲するのにもつてこいだと彼等が思つてゐるかも知れない。今、あなたのつくつたソデナシシャツと、白ガスリパンツだけのいで立ちです。ソデナシシャツはもう数回あらひました。此の頃のやうに水が出ないと、もう一つぐらいあつてもいいなと思ひます。今日は朝つくつたナスの油ヤキを夕方たべたせいか、ジンマシンが出ました。或ひはムシパンの中の魚粉のせいかも知れない。南の風が湿気を含んで、肌が、さつきも洗つたばかりだのに、ニチャ〳〵する。

幸子から謙一あて（一九四四年八月五、六日の記、七日の消印）

今晩はこちらに始めてのすばらしく暑い夜、いま九時半ですが、29度あります。何時もは二十二度位なんですが。お母さん又病気、食べすぎとのみのための睡眠不足から来る疲れでせう。一日何も食べず入歯をはづして、ポパイの口の様な格好でねてゐます。何しろ一度に大きなトマトを三つも四ツもペロ〳〵と食べるんですから、今までおなかを壊さなかつたのが不思議です。今日は朝は五時半起床、朝食前に二階の掃除、一時間かかります。七時食事。食後は後片附及台所掃除、9時までに一度におひるの支度もしてしまつて、9時から11時半まで勉強、その後ひる食のためテーブルを出したり丼につけたり、食後は片附をして、1½まで夕食のためのおかゆ、其の材料準備、たきぎをもしてふたを閉めておく。これで四時まで、私もフーチャンも好き勝手に時間を使へます。（お母さんがゐる時は凡てお母さん流にしなければいけないので、合理化などもつての外で、みす〳〵無駄な時間を使ひますが）四時から下の掃除、客ま、廊下、茶のま、六丈（畳）、不二子部屋、内玄関、庭はき、全部ふきさうじ（ぞう）をして、庭に水をうつて五時。十五分位で水浴（但し風呂場）、六時まで二階の廊下で読書、六—七時半まで夕食、後始末、7½—9時まで勉強と云つた具合でした。暇な様で案外暇ではありません。掃除も炊事も、原宿時代とはスケールがすこし大きいから、相当の体力を要します。間に来客のための応接、茶だしもあり、早苗の世話が随分邪まを致します。

早苗も此のごろ始（やっ）んど定期的に、午前中私の勉強してゐるところにやつて来て、必ず三十分から小一時間、絵の本を見

てゐます。裸体美術集が特に好きな様で、毎日他のもみますが、あれは確実に始めか、終りかに見てゆきます。先づ以上の様なコースで、毎日を送つてゐます。さう〳〵又もや井戸のトラブルでポンプが壊れ、道路を横切つた前の家まで貰ひ水ですから、水汲み丈でもうんざりする位、一日の中何べんも代る〳〵でゆくのです。貰ひ水のつい手（ママ）に目下痢と猛勉のせいと、先日来の心理的斗争の結果でせう。方を計つて来ました。六月始め九貫八百（ふ）でしたが五〇〇匁減つてしまひました。下手をすると、又八貫（四貫）に戻り相です。竹輪事件の手紙拝見、始めて聞きました。困つた婆アさんですね。廿六群の輿論はどんなだつたのでせう。大体に於て婆アさんに反対なんでせうね。今までは昔の大家気取りで偉張（威）つてゐられたでせうが、これから東京にも空屋は出来て来る一方ですから、落目ですね。貸家フツテイが彼女をいい気にさせすぎたんです。流しや桶もずるいことをしたのね。ゴウダツも同様ですもの。それにしてもあの日和見の辻岡さんも今度はよつ程カンにさはつたんですね。それであの婆アさんは腰を抜かせばよかつたのに。

なにしろ引越は随分大変でしたね。もう今どこそ（福）、すつかり終つたんでせうね。手紙をみる毎に、オヤ〳〵まだ終つてゐない、併し今度こそ終るだらうと、何辺（ヤ）も思つたのです。まだ何か残つてゐるのですか。よくもあのせまい家にそんなにあつたもんですね。

毎日〳〵ポテートとおやきではどうでせう。お米をすこし食べなくては。米を渡して、小使さんに一度か二度位炊いて貰つたらどうでせう。それにしても魚つけは一度もないようね、配給ないんですか。

それからシーツは、こちらにも貰へ相なものがありません。布も、白い布と云ふ布は皆ホータイや手術用のカバーになつてギリ〳〵ですので、ゆかたをほどいたもので一枚作りました。白くないので、気持わるいかも知れませんが、肌ざはりはわるくありません。粉を少々チョロまかしましたから一諸（緒）に送りませう。ベーキングパウダーはまだありますか。粉は袋にいれず、新聞紙に唯いれてありますから、出す時注意して下さい。

仕事の方はうまく進展してゐますか。此の頃の手紙は外の事が主で、勉強の事はあまり書いてありませんね。日記の様な克明な報告、時間をとるでせうから、―あんなに私のためならする必要ありません。

明日は荷物の未解のものをとくこと、送つて来てあるぼろの整理、それからあなたの袷を仕立屋にもつてゆくこと、がヨ定のプラン―日曜ですから勉強は休みです。勉強も、あまり毎日ガチ〳〵詰めてするのも―能率は実際は上らぬ様に思へて来ました。

アメリカ史にしても、あなたの来る前にフェデラリストの時代までやつて居たのですが、其の後十日以上立つてよみ返して見ると、独立当時のところなどよみ落してゐるところ—実は充分な理解が出来てゐなかつた—そして今又発見したと云ふ—が、あちらこちらにあり、あの時、あなた聞いた北西部領地条例の意味など—（それの生れた過程、生れねばならなかつた原因）、よく解つて来ました。私はあの時は、それの持つ結果から云つての「意味」にばかり注意をよせてゐた事がわかりました。そんな風ですから、長くかけて、何度も何度もよみ（他のものも、例へばアダムズのも）、すこし行つたら、又戻つてよんでみる事に致します。何時になつたらあなたの書いたものを理解出来ることか、此の調子では前途みち遠しです。

M・E（原文）伝、ユダヤ人もその通り。これもユル〳〵楽しみつつかみしめてゆきませう。どうも私は勉強に対して、質より量を尊重するところがあるんですね。今度は質を勉強したいものと思つてゐます。

十時

では今夜はこれでさよ（や）うなら

八月五日　　幸子

謙一様

八月六日

今日、坂田婆アさんから葉書が来ました。引越の件には何もふれず、早く丈夫になつて東京に来い、まつてゐる、と書いてありました。

謙一から幸子あて（一九四四年八月五～六日の記）

八月五日晴

今こそ夏らしい夏です。毎日のこの日照り、ぢりぢり焼くやうな暑さ、寸毫の妥協もない青空。

いつもなら小笠原南方洋上に発生して不気味に本土を狙つてくる颱風を心配するところでせうが、今はアメリカの空軍がもつと現実的でもつと悪意あるもつと怖ろしい危険です。昨夜は全く空襲にうつてつけのやうな夜でしたが、警報が

とけたのは、この夏の暑さの重みを一カサだけ減らされたやうなものです。
今日はジャガ芋20貫を防空用に約束しましたが、景品にこつそり大きなスイカをくれました。まるで鬼の首でもとつたやうな気になりました。分室へ帰つて八人で食べましたが、久しぶりで味覚の極楽でした。みんな勢余つて青い所まで食べ、一人が昔乍らに赤い部分を残した食べ方をして一せいにケンケンゴウ〳〵の批難を浴びました。
伊藤書店の鶴田君が校正をもつて来ました。もうスイカはなかつたが、井戸水に冷したトマトは彼を喜ばせました。校正も四分の三終つたわけです。鶴田君には感謝せねばならない。始めは百五十枚ぐらい(ゐ)の予定だつたのを七百枚にしてしまつたのですから。それでも彼は、伊藤書店で出す本として今度のプランテイションは一番出し甲斐のある本の一つだと云ひ、最近校正でまた読みなほしたらしく、大いにほめてくれました。言葉が少しむつかしすぎる所があるが分析はたしかだし、今一番読まるべき本だから何とか空襲が来るまでに出したいと云つてゐます。僕としても最初は十日ぐらいで百五十枚ぐらいに書くつもりだつたのが、書いてゐる中に果てしなくふくれ上り、次から次へと長くなり、結局予定の最も書きたかつた歴史を書けずに、余り得手でない統計数を中心とした現状だけで七百枚になつて了つた、と云ふ風ないはば計画性の不充分な、書きなほせるなら全体を書きなほしたいやうなものだつたので、何だか出すだけのテイサイが整つてゐないのではなからうかとの不安もあつたのですが、鶴田君がその編輯者（彼自身昭和十六年に文部省スイセンになつた著書があつて、僕よりも著者としても先輩）としての見識を以てほめてくれたのはうれしかつた。僕も校正してゐて内容が実に面白いので、早く人に読んでほしいとしきりにせかれます。自分で云ふのもおかしいが。たしかに歴史そのものの面白さ、現実の面白さ（ダイヤモンドの松沢氏が「大変面白くて有益な」と云つてくれたが）なのです。僕よりもつと歴史方法ががつちりしてゐて筆力のある人の手になれば、どんなに面白かつたでせう（面白い所か何とも悲惨な憎むべき現実ですが）。
あなたに対する僕の一切の不親切、我が儘、無理解、高圧的態度、「いこぢ」、それら一切のあなたを悩ませ苦しませたもののおわびを、僕のこの労作でかへるのは卑却(ひきゃく)でせうか。僕は衷心から、この労作をあなたへ捧げるのです。献辞は気障だからよしましたが（一切の個人的なことは割愛しました）、僕の心はわかつて下さるでせう。
まだ〳〵本になるまでには時日がかかり、従つて戦局によつては日の目も見ずに終る可能も多分にもつてゐるが、僕は、出来上る日のことばかり此の頃考へてゐるのです。考へてみれば、どの本にもその作者とその関係者の深い喜びや悲しみ、苦しみや昂奮やが含まれてゐないものはないでせうが、僕の場合はただ処女作だと云ふことでなく、その本のもつ

意義が益々重大化しつつあることと、しかも危険が益々多くなつてゐること、さう云ふ切ぱつまつた外的条件のため、若し出ればどれほど嬉しいことか。しかもそのうれしさを本当に共に出来るのはあなただけなのです。

今日は久しぶりにおひるにチャーハンをたべました。之は、ベン当の御ハンを貰つたので（米と引きかへ）、油と玉ねぎとなすとトマトと白すぼしとでお昼に作つたのです。中々おいしく出来ました。あとは（朝と夕）いつもの通りジャガとなす。メリケン粉もあと一回でおしまひ。

今夜も月はステキによろしい。センタク二つ。

八月六日。晴一時曇。

あなたの四日付手紙を拝受。あなたの気持に対する僕の同情の足りなかつたことは自分でも悪かつたと思つてゐます。だが、実際にたしかにあなたへの僕の我がままな不満から、意地悪い気持も働いてあなたの疎開したがらない気持をかへりみずに、独断的に強引にやつて了つた点もありましたが、それでも基本的にはあなたの身体への憂慮が第一だつたことは絶対事実です。僕はあなたのいつもの帰りが遅くてさへ、自動車事故か何かあつたのでないかと心配するくらい(ふ)で、空襲の時のあなたへの心配は、あなたが思ふよりは大分大ゲサなのです。その証処(拠)には、あなたを疎開させてから後あつた数度の警戒警報に、はるかに安心したのんびりした気持でゐられたものです。自分でも驚くほど。僕自身は応召その他、生命の危険はいくらでもあるので、此の頃余り自分の生命に執着をもてないが、それだけにあなたの生命への執着は強くなつてゐるのです。

あなたの健康への僕の同情の不足は本当に云ひわけのしようがない。あなたに健康能力の限界以上のことを要求して来た我がままは、何と云はれても仕方がありません。僕もそのことはわかつてゐながら、つい自分中心になつて、要求を多くしました。

だがあなたのお手紙はやつぱり僕の仕事について殆どふれてゐない。僕の今年になつてからの一切の行動の根拠が、何よりも、戦局に極度にせかされた自分の仕事への、他をかへりみる余い(ゆ)うもない執着にあつたことを、之までのすべての手紙でくり返し〳〵云つて来たのに。僕がその仕事をすべてのことの口実にしてゐると批難されてもやむを得ないと思ふほど、実際に僕の生活に於ける仕事の意味の大きさはこの半年以上、今までに全くなく大きかつたのです。今でもさうです。それは僕のプランテイションを出すについては、どうしても調査会の仕事をある程度やつておかないといけ

ないから、結局二重三重に切迫して来てゐたのです。あなたが僕の仕事を理解すると云ふことは、仕事の内容だけ理解するのでなく、その仕事にかり立てられる内的外的圧迫の下の僕のあせりをも理解してくれる必要があつた。そのことは今もあなたは理解してゐない。この一月、二月、三月頃、書けない書けないで悪戦苦斗(闘)の限りを尽してゐた時、あなたはその僕の苦しみを殆ど理解してゐなかつた。だからこそこう云ふ手紙も書けるのでせう。

だが、やめませう。お互ひに自分のことばかり云つて、それに対する相手の同情の足りなさを責めても肝腎のことは一向はかどらない。二人とも、疎開までの数ケ月、お互ひに相手に不満をもつて来た、それは僕には仕事と云ふ理由があり、あなたには健康上の限界があつて、夫々相手を中心にする心の余裕がなかつたからだ。そしてその僕の仕事とあなたの健康とのためには、一時我々の心情生活を犠牲にして別々に住むことが必要だつた。トルストイも云つてゐるが、夫婦生活に於て何か仕事をやるためには完全な二人の一致結合か、さもなければ完全な分裂かが必要なのでせう。あの時僕の仕事のために完全な結合が望まれなかつたとすれば（あなたの健康上の理由もあつて）、やはり別々に住むより仕方がなかつたと云へないでせうか。しかも戦争は、僕の仕事を待つてくれないし、あなたの健康を東京で恢復させてはくれない、それ所か、いつ応召があるかわからない僕のことはとにかくとして、あなたの生命は空襲で危険にさらされる。事態は「高圧的」でも「独断的」でもテキパキと速かにちゆうちよなく運ぶ必要がある。お互ひの心情の問題はあとでも解決出来る。先づ解決すべきはあなたの健康と生命との安全、僕の仕事の完成だ。冷酷といはれ、意地悪といはれ、えこぢといはれ、自己中心といはれ、何といはれようとも、あの時僕の仕事を完成するためにはああするより外なかつた。若しあの時疎開してゐなかつたら、きつとまだ原宿で不快な隣近処に悩まされ、重荷の同居人に神経をいらだたせ、それらや仕事の進まぬいらだちをあなたにぶちまけ、あなたも反撥し、健康も恢復出来ず、配給物（今は八百屋も魚屋も一カツして魚清とその隣の八百ヤとになり、買ふのに三十分もならばねばならないのです）で苦労してゐることでせう。

さう思つて、あの時の僕の無理解、えこぢ、自分勝手、浅薄、等々すべてを許して下さるわけにいかないでせうか。卑却(ひきゃく)といはれようと何と批難されようと、ここ半年余りの僕のあなたへの不当な態度のすべてを、僕の「プランテイション」、僕の全精神をこめた労作でおわびさせて下さい。この労作は、それをつくり出すためにあたへたあなたへの害を、充分つぐなふだけの社会的価値があると自信を以て云ひます。これをあなたへ捧げることで、僕のいけなかつたことをすべてつぐなはして下さい。

リンカーンのほんやくは、原稿紙へていねいに書いて行くといい。ネールは殆どコムニストです。今日あなたの手紙と一緒に正木氏のハガキ（移転通知への返事）が来て、「新しい時代が近づきつつあります。理性と愛とが支配する時代が。天照大神の御精神が闇を通して輝き出さんとしてゐます。私は闇夜の明鳥貴著を待望す」と云つて来ました。彼は僕がジョージア・ニガアの話をして以来、僕の本を待つてくれてゐます。

今日は主食はジャガと大豆で相かはらずでしたが、吉武君からもらつた魚の油漬カンヅメを開き、その油で玉ねぎとなすといためてたらふくたべました。プシがゐれば一カン魚をやりたい気がしました。プシのやつ、どうしたことやら。哀れでなりません。時々思ひ出しては、ここへつれて来られたらよかつたと思ふ。夜もナスとジャガとで夕食をすましてゐたら、小使さんから精進天ぷらをくれました。中々うまかつた。とにかく栄養たつぷりでせう。

では之からヨセ中継でもききませう。

幸子から謙一あて（一九四四年八月七日の記）

お手紙有難う。校正で大変ですね。本当に本が出てからなら、召集来ても心残りないでせうが、今は困りますね。今月一杯は確実に大丈夫だと思ひますが。

今日（八月七日）富山知事□房出で、沢田さんからブリタニカ二冊郵送して来ました。一応そこへ受取つた旨の葉書を出しました。

和歌山からも手紙が来ました。寛ちやんが利□さんを無理に誘つて、朝鮮へゆく相ぢやありませんか。自由な時のなくなるのを知つて、追はれる様に短い間でも旅行したいのでせうね。

鎌倉のみつちやんはまだお産しない相で、心細い様な事を述べた手紙が、お母さん宛来てゐます。教次さんも此の秋中に信州へ疎解（開）する決心だ相で、みつちやんも秋になる早々、来る相です。お父さんはラジオを聞く毎に心配してゐましたが、昨朝はとう〳〵（たうとう）朝子、稲子に帰つて来る様に、東京引き上げをする様に、手紙を出せと申しました。今月末と云つてゐるうち十五、六日ころにはもう東京空襲あり相ではありませんか。警報の出る毎に、そちらにゐる人々を心配するのも、相当心の負担です。

今日は物凄い土砂降りで、測候所の人が来ての話に、大暴風が来相だと話してゆきました。家中しめつぽく温度も下り、

モンペをはきました。昨日の手紙に書いたお母さんの病キは、もう良い相で起きました。今日一日位ゆつくり床に就いてゐれば皆大助かりなのに。今朝は早くから起きて、皆、ね坊すぎるとか、掃除が粗末とか、いろいろ不足を云つてゐます。皆、各々、それなりに一生県命(懸)やつて、ほめられる位だと思つてゐたのに、大あてはづれ。朝食もダラ〳〵雨だれの如く続く小言で、折角の生卵の味も落ちました。揚句のはては猫のわる口、篠田さんに返してしまへとか、猫を好きな奴はお妾根生(性)とか、みつちやんそつくりの事を云つてゐます。お茶の時は、何かの話から又もや不機嫌ぶり返し、皆恩知らずだとか、本ばかり読んで家の事をそ□つぱにする女は大嫌ひ、本ばかり買ふ男は一番悪いと云ふところまでに及びましたが、段々と御機嫌をなを(ほ)す事に成功致しました。

私は家の事も随分やつてゐるし、掃除も炊事も私の方法でなく、お母さん流のシステムを採用して好きな様にやつてゐるつもりですし、自分の我など一度も通した事はありませんが、それでも中々及第になりません。ふうちやんの様に判然と反対した事もないけれど、心の中で時々肯定してゐないと云ふ事を知つてゐるからでせうね。

封建的家族主義制度に長年苦しめられたお母さんであり、それの持つ非合理を身に沁みてゐる筈のお母さんが、―矢張りそれの激しい支持者であるには嘆かれます。殊に早苗に対する不二ちやんの態度を非難する時の立場は不合理其のものの様に見え、不二ちやんが気の毒になります。不二ちやんが時間でも仕事でも合理化し、読書の時間や縫ひ物の時間を持つ事は、お母さんには赦し難い罪悪に思はれるらしいです。

お母さんの不機嫌は家中に暗影を投げかけます。従つて私も祐(怒)々と机の前に座つてゐる事が出来にくく、さうかと云つてウカ〳〵しても用事はなし、タイフーンのすぎ去るをまつ外ありません。

凄い雨で道路をはさんでの流はあふれ出し、菓子屋の隣家は便所に水がつき土間にあふれ、其の汚水が道路を流れると云ふ事になり、道路にはみのかさつけた人がいつぱいです。さうして此の雨は中々止み相もありません。どんな事になるか、家でも茶のまは雨洩りが始まりました。運送した荷物―本は此んな事では、どこかの駅で濡れてゐないかと心配です。あんまり凄い降りで外は白く見えます。一寸恐ろしい気がして来ました。

西山さんは九州の松浦郡有田町に落ちつき、そこから至極のんびりした手紙をよこしました。大金さんも先月末に田舎へ発つた筈。どうしたのか未だに手紙が来ません。

さつき下でジョンソン博士講述、高木八尺訳と云ふ米国三偉人の生涯と其の史的背景と云ふ本を探して来ました。今晩は外の勉強中止で、これを読みませう。

小包みは、今日出しても濡れる様な気がしますから、明日出しませう。

あんまり毎日手紙を書いてゐるので、あまり書く事もないですが、余白があるので、何とか埋め様と思ひます。

今日のあなたの手紙、十年前と現在との相違でも、先頃の手紙でも、しきりに現在の生活は二人の相互関(間)のおぎなひ合ひだと、あなたは述べてゐますが、残念乍ら私の方は何等あなたに与へ得たものはありません。どんなに考へても。いくらか思ひ当ると云へるのは経済的な点丈です。これも実際はたいした事も出来なかつたのです。私がお金をすこしでも取つた事は、むしろ私たちの生活を、あなたの云ふ如く、勘定高いものにもしたし、私にしても働いてゐるんだから、と云ふ意識を常に忘れさせず、あなたに恩にきせる心持をもたらし、私のケツ点を尚も増長させもし、健康も害し、最も重要な悪は今年始めあたりからのトラブルへの前程(提)を作つた事だと思ひます。すると私は矢張り、あなたに何も与へ得る事が出来なかつたのです。

うんと手前味噌に云へば、私の如きぢや〳〵馬女房を持つた事により、あなたは相当の苦々しい経験を積み、―それがあなたの物の考へ方をきたへる役に立つたと云へる事丈でせう。私があなたに持つた不まん、―対外的責任回避的態度もなくなつた様ですが、それも以上から来た結果でせう。

私はみつちやんと生活し、お母さんを見る事によつて、自分の欠点をそのまゝ目の前にさらけ出されてゐる様につくづく思へて、時には顔をそむけたくなります。

主観を押し通さうとすること。すぐに話を感情的に受け取つての急激な反応。反射的応答。早のみこみ、早合点。悲観的方向への傾斜。猛烈な自己主張。宣伝。抱ヨー力皆無。限度なき事。好き嫌ひの激しさ。そして無考へにそれを表現する事。平静を保つ事のない事。自己への人の批判を赦さぬこと。等々、共通の欠点です。

彼女達が其等の欠点をさらけ出す時、私も私の非難された点（それまで納得出来なかつた）が、実に明瞭に拡大強化されたかの如く見えます。一口に云つて見れば、以上の欠点は皆マルクスの所謂〝同類生活〟と相容れぬもの、不合理なもの、真の人間生活から分離されるもの、普遍でなくて個別なのですね。市民的利己的なものの表象ですね。そして其の中でも最も卑少(ト)なものなのですね。

すだれがちぎれ相に激しく揺れます。道路の騒ぎはまだ続いてゐます。では、さよ(ヤ)うなら。

お金があつたら、そして暇があつたら、白いネックレースを一つ下さいませんか。去年買つたような少(ト)さいつぶが何重にもついた、（ネックレスの簡単な図があるが省略―編者注）こんな風なのを。白でも緑でも、青でも朱いろでも結構です。

謙一から幸子あて（一九四四年八月七～九日の記）

八月七日、雨風。

久しぶりの雨だと思つたら、「かうちよい〳〵降ると作物によくない」とお百姓がなげいてゐました。午後から颱風のやうになつて、夜は雨戸をすつかりしめました。原宿のボロ家とちがつて、颱風でも悠々としてゐられます。

今日は一日原稿（独立戦争）を書きました。二百字詰六十枚。あと十枚か二十枚を今夜中に書きます。今丁度九時のニュースで一休み。明日芦野さんに提出するので中々苦戦のてい。

今朝は小使さんが一時間まちがつて六時半に起きたため、僕がコンロを借りる時間が半時間しかなくて、ジャガをゆでてナスを油焼きするのがやつとでした。だから朝昼晩とジャガとナス、それにキウリをなまでかじり、トマトをたべました。トマトもぼつ〳〵おしまひで、此の頃のはくさり易い。

夕方自分で火を起してみたが、炭が悪いのでカンシヤクが起つただけでした。お湯だけ下でわかしてもらひました。いろ〳〵たのめばしてくれるけれど、なるたけ一人でやらうと思ふので。それにしても今夜は空腹でキウリを一本よけいかじらなければならなかつた。カボチヤを一つ買ひましたが、やはりジャガが一番簡単でいい。あと一貫五百匁ばかりあるから、まだ暫くつづけます。ナスビにもやや飽いて来ましたが、外に買へる野菜がないのでやむを得ません。

あなたの万年筆をもつぱらつかつてゐます。割合書きやすいです。今日利ちやんから便りがあつた。今二人とも有田へ帰省してゐます。のんきに腹一杯たべてゐることでせう。

明日小此木君が或ひは娘インディラの第一部をくれるかも知れない。彼も疎開します。もう荷物も出たのでせう。

今日は別に書くこともない。外はヒュウ〳〵風がたけり、少し開いてある東の窓から乱暴な風がふき込んで来ます。昨夜の寝不足で頭が重く、空腹のため元気がありません。明日は本室へ行つていろいろ人に会ふのに忙しいけれど、何かうまいものでも食べて来ませう。朝はやつぱりジャガで、小さいのを五箇、もう洗つておきました。今日は一日水が出て都合がよかつた。天気がよくてセンタクしたい時は水道の水が出ないし、水が出てセンタク出来る日は大てい雨で皮肉なものです。之で水道が普通に出てガスが使へれば申し分ないのですが。

ではもう一馬力かけませう。

八月八日、曇、風雨はやんだが、風は相かはらず乱暴です。

昨夜はあれから二十五枚ばかり書いた時、停電して、マツクラの中を手探りで床をとつて寐ました。十二時半ごろでした。今日は風の中を午前十時頃本室へ行き、二人の訪客と会ひました。小此木君は先月来点呼で坊主頭になつてゐました。娘インディラ第一部をもらひました。その中送りませう。

芦野氏に原稿を出しました。六月末の約束がこんなに遅れ、しかも実はまだ書きなぐりの草稿だつたので、弁解の言辞ばかり今朝から考へてゐたのですが、一向弁解の要はなく、独立戦争の内容をはなしてレッキ―のイギリス史を買ひそこなつた話をしたら、すつかり同情されて、誰かに借りてあげようと云ふことになり、レッキ―が借りられたらまた補筆することを約束して上機嫌でパス。彼は外の人には大分きびしく辛辣でも皮肉でもあつて、やりにくい相手らしいが、今までの所僕には殆ど常に紳士です。それだのに彼の方の仕事をいつでもあとまわし(は)にして、良心にとがめられてゐます。「芦野さんは菊池さんには怒れないんだよ」とは一般の定評になりかかつてゐるので、僕も少しいい気になりすぎてゐるやうです。警戒しませう。

昼に少しおそくなつて銀座に出ました。此の頃ジャガばかりだから今日は何か栄養をと思つてケテルスと信華とへ行きましたが、どちらも貧弱だしまづいし、之ぢや家でジャガとなすびの方がよつぽどうまいと思つて、夜はやはり帰つてたべることにしました。交詢社でダイヤモンドの松沢氏と会つて、ダイヤモンド日報の原稿打ち合はせをやりました。廿日頃までに書く予定にしました。形式がちよつとかはつてゐるので面白いでせう。南部のことはいろんな形に書いてみたいのです。

午後三時半から本室で、経堂分室の小使さんの壮行会がありました。それに今日はフクシンヅケを三百匁互助会で配給を受けました。三百匁で一円五銭。甘味はないがさう悪くない。干ピョウ百匁も注文しておきました。サツカリンも。研究室へ住み込み自炊をやつてゐると、大分人から親切にされます。芦野氏も住み心地やその他をきいてゐたし、「奥さんはどうですか」と外交官らしい如才なさも示してゐました。自炊は僕には何でもない所か、楽しみでもある点があるのに、外の人にとつてはまだ〳〵大変なことなのでせう。

夕食は帰つて火を起して（小使さんがすつかり用意しておいてくれました。彼は明後日出征で、妻君(細)と一緒に自分の兄さんの家へ行つて今日から留守です）カボチヤを煮ました。塩ゆでです。それとなすとジヤガとフクシンヅケ、之が今夕の食事。昨日の夜、塩鮭の切身一切の配給があつたが、之は明日でも。

こんな風な日記はあなたには退屈でせうが、まあつづけませう。
今日は受信無し。電話は鈴木正四、市川米彦。市川君が出した手紙は原宿から僕の方へ転送されずに元へ返送されたさうです。今日面会に来た藤田君もさう云つてゐました。外にも大分返送されてゐるのがあるのかも知れませんね。

八月九日、晴、風。
あなたの五日付手紙を拝受。お母さん御加減悪いさうで心配ですね。不二ちやんはいかが。暑い盛りで毎日うんざりでせう。勉強はあせらず、じつくりと現実ととつくむつもりでおやりなさい。大切なのは目的よりも手段です。常に手段が目的より優位にあります。堆積された知識の状態よりも知識の獲得の道程こそが生活です。さう云ふ立場から、読書と思索と生活経験との三位一体で認識と行為とを深めて行くべきです。アメリカ史を学ぶことが、その三位一体の一つの主題となり、その主題を凡ゆる緊張を以て凡ゆる部面から追求して行くこと。従つてアメリカ史の中に、我々の現在の生活につながる人間行動の内容、その認識と実践、そのありかたを探究し、そして我々の世界観をきたへ、歴史認識、人間認識、生活認識をきたへることです。さうすればあせらずにすむ。（新聞を忠実に丁ねいに見ること。世界戦局と世界政治への関心を持続すること。）疑問は手紙におかきなさい。書くことは、言表することは、観念をはつきりさせ理解を深めさせます。僕も手紙で出来るだけ答へて行きませう。そして一緒に考へて行きませう。歴史の勉強と一緒にあなたの周囲の人間関係、それが歴史的現実の中でいかに変化して行くか、また成長する子供の認識力の発展、その子供の生活への歴史的現実の作用、それらを観察し洞察し、アメリカ史にあらはれた人間行動の諸形態と結びつけて普遍と個別とに於て理解して行くこと。僕のアメリカ史は、歴史ではなく、歴史解釈ですから、アダムスの方がいいでせう。また、僕の原稿の方がいいでせう。
我々の従来のリーベで掘り下げの足りなかつた点に一つ気がつきました。僕はまだ真の愛情殊に性愛について、それを人間の所有感情とシユン別してゐなかつた。真の人間的愛情と所有感情との差は、前者は自己を相手に没入させよう、自己を相手に結びつけようと云ふ風にあらはれ、後者は相手を自己に結びつけよう、相手を占有しようと云ふ風にあらはれる。前者に於ては相手の人間性の全的な昂揚された承認があり、後者には本質的には相手の物品化がある。例へばドンキホーテの中にありましたね、或る学士か博士が、自分を好いてくれない女性に気狂ひになるほど惚れて追ひかけまはし絶望し恨む話が。自分を好いてくれない相手を愛して、自分のその一方的愛情に反応がないと恨んだり怒つたり

する、之は真の人間的愛情でなく所有慾にすぎない。僕が貴女にはじめにずつと感じて来たものは、この自己をあなたへ没入させたい慾望だつた。僕はこの種の自己没入的結合の要求を、永島、浅原、Miss（原文）T、あなた、中島君、之等の人達にもつて来、そして真にそれを満足させ得たのは、あなたに対してのみだつた。中島君が健康だつたら、それを満足させてゐたかも知れない。中島君との最初の一年（あなたは僕を八方美人だと批難したが、M女史に対する僕の感情や態度はたしかに不用意であなたに批難されても仕方のない—遊戯的要素がないではなかつたが、中島氏との友情はちがつてゐた）のあの二人の懐しさ、毎週二、三日は会はずにゐられなかつたあの懐しさは、ただあなたへの恋情以外にそれに近いものもなかつたやうなものだつた。この頃のあなたとの関係はどうか。やはり僕は、自分をあなたに没入させ、あなたを僕に没入させたい基本的欲求をもつて来てゐる。それが、はじめの頃のやうな熱情的な強さをもたないにしても、いつでもその欲求であなたに対して来た。それがうまく行かない時、その不満からいらいらし、前便でのべたやうなあなたへの正当でない態度が出て来たのだ。もう一つ、僕の全生活の没入を要求する仕事が出て来、その仕事があなたの生活と無縁だつたことも不満の原因だつた。

結局同じことを書いてゐるやうだが、我々の今後に於てお互ひをお互ひに没入させる方向に心情生活とまた理性生活とを進めて行かねばならない。

今日は上北沢分室（独研）をおひるから訪問しました。その前、十一時頃にアサちやんが遊びに来ました。鎌倉へミつちやんのお見舞ひの途中寄つてくれたのです。彼女も疎開しようと思つてゐると云ひました。僕も賛成しました。大宮島をとられたら、もう確実に空襲も来るでせう。今度は小笠原島ですからね。東京も街中の防空壕に掩蓋がつけられ、省線に沿つた家はこはされ、まるで震災のあとのやうです。学童疎開と云ひ何と云ひ、すべて真剣味を帯びて来ました。上北沢はツル君の家です。「ツルの奴、圭介の友達でなけりやぶんなぐつてやるんだが」といきまいてゐた上田君が、そのツルの家に行かされたのは皮肉みたいです。だが中々明るいいい家です。上田君の次男（七月出産）を見に、且つ彼の作つたナンバを食ひに、明晩でも行かうかと思つてゐます。招待を受けたのです。ナンバ（モロコシ）百本作つたさうで、彼もたしかに上田作之助の名にふさはしい男になつてゐます。「家では朝からオムツの洗濯と子守りをやり、上北沢へ来ては安間老のオ守りで遊んでやらんといかんのでくたびれるよ」と、当の安間老（将棋相手）を前にガイタンしてゐました。

今日も朝、昼、晩と、ジャガ、カボチャ、ナス、フクジンヅケ。大豆はもうなくなりました。トマトもぼつ〳〵ありま

せん。上北沢ではオデンが買へるとのことでしたが、実はキウリのオデンださうで、今日は休みでした。経堂から歩いて三十分。

上田君と将棋のモハン試合をして平手で一勝一敗。「たしかにうまくなつた」と認められました。

幸子から謙一あて（一九四四年八月八～九日の記、九日の消印）

八月四日附のお手紙、夕食前に受けとりました。今朝も手紙書きましたが―いまちよ(ぢ)うど半端な時間ですから、又書かうと致します。

夕べの雨の激しさ、夜中に松川がゴー〳〵音高く流れて恐ろしい位でした。で、今朝起きて歯を磨き乍ら松川端へ足駄を穿(履)いて行つて見ました。床の中であの流の音を聞いてゐた時は、川べりの畑はすつかり駄目になつてゐるかと想像してゐましたが、すこし流れた位でした。併し水はだく流渦巻くと云ふ風に流れてゐました。空は未だくもつて何時又昨日の様なのが来るかわからぬ様子を示してゐました。池の水のはいつて来るところは、どろで詰つて水がこなくなりました。あとで聞いたら、昨夜の半鐘は鼎の駅が水で大こん雑を極め、電車は通じなくなつたとのことでした。家の前の肴屋（雑貨）も浸水して、どまは水びたしだつた相です。あの少(小)さい流も今朝もまだ狂気の様にぶつかり合ひ乍ら流れてゐました。其の中で大きい子供が、池がこはれて流れこんで来る鯉をあみで取つてゐました。

時間割はお賞めにあづかつてうれしいですが、又一寸変更致しました。但し時間の区切方です。結局一週間に、

アメリカ史	十二時間	
リンカーン	六時間	
グランマー	四時間	
経済入門	四時間	これ丈やる事に
経済史（ローザ）	四〃	しました。
M・E（原文）	四〃	
ユダヤ人	四〃	
地代論	二時間	

40時間

併し此の時間割は外的障害によつて破られる事も相当あります。今日はそれもあり、身体も一寸わるく消極的で、午後は二階でねころんでピョートル大帝をよみましたし、夜は食がおくれ、お風呂もあり、洗髪、洗濯をやつたりしてゐるうちに一〇時となり、午前中の三時間しか出来なかつた位です。あせらず怠けず誠実に（自分に対し）やつてゆきませう。

質問の件のお答へ有難う。レギュレイターのことは、それでは原稿を探して此のチャンスに読みませう。アダムスの歴史観、さう云はれればさうの様であり、私にはまだよく解りません。但し、もうすこしと思ふところでスーツと通りすぎるなァ、とは感じて居りましたし、あなたの云はれる如く憲法制定のあたりは、全く同感でありました。

何故物足りなく感じたかを、よく〳〵解つたように思へますが—真実に解つたのかどうか。確にアダムスは、ミドル・クラスに主体を置いてゐる様です。さうして全体の書き方は面白いけれど、相当粗雑にふれてゐるところ（併も読む方ではそこをもつと精く知りたいところ）も目につきます。私には何も彼も物珍らしく面白いのでせう。今は何でもどんよくに味はつて見てみようと思つてゐます。

パンツはあれからあと、もう二枚（つぎはぎもいれて）作りましたからおかへし下さらなくてもいいです。ウエストは適当な布があつたら作りませう。こないだからさう思つてゐたのですが、ぼろ布袋の整理が何時になるか—なので。代用ココアがまだ四、五缶、竹下商店（うちの前）にありますから、買つておきませうか。あまりおいしくないけれど。どうしてそんなに水が出ないのでせう。空襲でもあつた時は困りますね。それからあなたのゐるところには防空壕があるんですか。

小使さんがゐなくなつては調査会も困るでせうし、留守番は男はあなた一人では何かの時に全く困りますね。あとの補充はつくのですか。空襲とか火事とかの時、頼りないでせう。

今日はもうねむくなりました。又明日、書きませう。

八日夜

九日あさ

今朝小包み送りました。代用シーツ、フクラシ粉二、林ご三個、メリケン粉も½。

作りあげてから代用ココアのことを思い出しましたが、次の時のにいれる事にしませう。

幸子から謙一あて（一九四四年八月一〇日の記、一一日の消印）

久しぶりに暑い晩です。フーチャンの押入れの中に南原さんに棚を作つて貰ひました。二つある中の湯殿によつた方の押入れです。こつち側（略図中にAと記した場所、ただし略図は省略―編者注）に一間の高さに五、六段出来ましたので、赤本その他を後側にして二重にいれましたら、―物置に残つてゐた分と看護婦室の押入れの下の段のは全部がはいりました。こゝ（略図中のB―編者注）は箱のまゝ四ツ位、重ねておきます。これ（略図中のC―編者注）はおぼんがすぎたらAと同様に作つて貰ひますから、運送で来る分や、客まにあふれてゐる分を全部整理してしまへると思ひます。物置のすいたところへ、今度送つて来る椅子や机をいれ様と思ひます。客まの見えるところにある本は―あそこはいろんな人が来ますし、お父さんが貸す恐れがありますから、Cのところへいれます。

今日は其の整理で七時からあとの勉強時間は全部潰してしまひました。もう九時半ですから、今夜はあまり出来相もありません。点数にすれば50点ですが、―かう云ふ障害で出来なかつた時と、オブローモフになつた時と、病気の時とは点のつけ方を変へないと不公平ですね。

お手紙拝見。先日の私の手紙は又、あなたをいら立ゝせた様です。そんなつもりはなかつたのですが。矢張り自分のベンゴばかりしてゐて、あなたの気持を考へてなかつたのです。本当にすみません。あなたの云はれる通りでした。あの手紙の書き方では、さう思はれてもし方がありません。確にあなたの云ふ通り、あなたの望む程、あなたの切実な要求を私は理解してゐません。私なりに前後の事情も察してゐた、と思つてゐたのですが。―あの当時は出来なかつたが、今は出来る余祐（祐）が出来た、と思つてゐますけれど、まだ出来てゐないんですね。

かう云ふプロセスを通らなければ、お互ひにトコトンまでわかり合へないと思つたから、思つたまゝを書いたのです。其の結果として今日になつて見れば、あなたの当時の気持のおさつしは充分ついたと思つてゐます。どれ程、其のためにあなたがいら立つたかを。

私はあの時、たしかにあなたの其のあせりが充分納得出来ず、納得出来る余祐なく、余祐なかつた事は一時的の事であつた、と云ひ度かつたのです。いつまでも、この調子であると思はれたくなかつたし、自分でもいつまでもさうだとは思へない。それを云ひ度かつたこと。だからクド〳〵と其の原因を述べ立てたのです。責めたり、罪を一切あなたにき

せる気ではありませんでした。

唯、疎解(弁明)の件についてのうらみは、あなたの云ふ通りでした。あゝせねば結局、―同じ状態をくり返したであらうことは、今日はよくわかりました。あなたがそれ程に私の生命や健康を心配してゐて下さつたとは、全く思ひもよりませんでした。私は私の健康など問題にしてゐない人だとばかり思つてゐました。それと云ふのは〝女房の一人や二人死なうと生きようと、そんな事にかまつてはゐられぬ〟と云つた事が心の何処かに残つてゐたせいでせう。そんなに心配してゐて下さつたのに、とや角申した事は誠にザンキ致します。どうぞおゆるし下さい。

あなたの事をいこぢだの自分勝手と申した事はすべて取消に致します。その様な認識不足の私に労作をささげて下さるなど、全く穴あらばはいり(ひ)たいと思ひます。これはどうぞ誰か他の人にデジケートして下さい。私には全くそんな資格はありません。資格もなくザンキしてゐる者にさうして下さる事は、皮肉の様でとても平気ではゐられません。これはやめて戴きます。今後本当にお仕事の手つだひがいろんな意味で出来た時にこそ、さうして戴きます。

又あなたが「おわび」と申してゐられる事も、あなた丈に罪があつたわけではなく、むしろ私の方に沢山あるのですから、そんなに云はないで下さい。あんまりおわびするとか、許してほしいと書いてあるので、真実皮肉を云はれてゐる様で嫌な気がしました。さう云ふ事は一切やめませう。今度の事はたしかに私の方に非は充分あるのです。知らなかつた、―と云ふことも非ですものね。私はあなたを責める気よりも、私のあの時の状態を述べて弁解する一方だつたのですが、つい勢ひあまつて責める様な事を云つたのでせうから―もう、どうぞごかんべん願ひます。あなたの勢(精)一杯の仕事の防害(妨)ばかりしたあげくに、今に至るもぐず〳〵云つて、まことにお恥かしい次第でありました。

校正もあとすこしの様でよかつたこと。校正が終つても中々出版の運びにならないのですか。校正がすめば、すぐに印刷出来相なものですけれど、其の次のトラブルは何でせう。紙の不足でせうか。

今度のあなたの仕事（尤も何時もさうですが）は、本当に何重にも〳〵私が防害ばかりして来たので、いろんな意味で―今度こそ私も一日も早く出版の運びになることを、心から願つて居ります。併しどの程度、私にわかるでせうね。それもいたく心配になります。本当に心配です。それと云ふのも、今までの心がけのわるかつた罰ですね。もつと前からあなたの仕事を努力して読む様にしておかなかつたこと―あんなにあなたに云はれたのに―は、返す〳〵も申訳ありません。本当に〳〵残念です。どうしてあの当時、そんな気になれなかつたのでせう。あんなに始終あなたに云はれ、喧嘩までしたのに。何と私は強情なのでせう。もつと外にする事がある様に思つてゐたのかしら。人の云ふ事はてんからう

けつけまいとするのかしら。今はどう考へてみても、あの気持がわかりません。
自分にはとうていあなたの仕事は理解出来ない、ときめてかかつてゐたのでせうね。すこしよみかけても六つかしい(ママ)ので、すぐホーキしたのでせうね。どうしてもつと〳〵わかる様に食ひついてゆかなかつたのでせう。尤も全体から云つて、私の知的水準はとても低いので、今にならねばそれすらわからなかつたのではないでせうか。どうも今は其の当時の気持はモコとして一寸も考へられません。唯、真実のところは、私には私の教養を以てしては一寸手がとどかぬ程遠いもの―に思へた事、―それへの努力のうるささを、其のまゝみすごしたのではないかと思はれます。努力してする勉強の面白さ―は、よう〳〵ここ半年位のうちに覚た事ですもの。さうではないでせうか。
本当に私はあなたの妻としてねうちのない女ですね。さう云ふ事にすこし気がついて来た事も一歩前進かも知れませんが、口うるさいし、仕事に対する理解もないし、日常の生活すら援助もしない、それどころが(ママ)防害ばかりするとは、何と云ふとび切りの悪妻でせう。本当にあなたには重々すみません。其の中で、よくそんなに立派な仕事を完成なすつたかと思つて全く申訳なく、首をちぢめて居ります。今度は多(大)いにむちうつて勉強して、多少でもわかる様になりたいと思ひます。

十日夜　　大いに悔ひ改めたる幸子□

謙一様

謙一から幸子あて（一九四四年八月一〇～一一日の記）

八月十日、晴。
昼間の気温三十四度。夜になつても三十度を下りません。風もなく、今夏第一の暑い日。星は出てゐるが湿気が多いらしく、冴えてゐない。野菜も夏枯れ。
今日はここの小使さんの入隊日で、昨日からずつと僕が留守番と云つた形。それ故毎食火を起します。今朝は久しぶりに雑炊を煮ました。うまかつたが汗を困るほどかいた。昼は朝の残りをもう一度火にかけ、夕食はジャガとなす。一昨日配給の塩鮭の切身は今朝たべました。
朝、七日付お手紙拝受。皆信州落ちもいいでせう。さうなると郵便局の二階でも交渉する必要がありさうですね。あな

たの日常生活、元気らしいのと充実してゐるのとで、敬服にあたひします。落ちついて、理性と感情とを不断に緊張させ豊かに鍛へ、しかも柔軟に大きく発展させて行くこと。我々は感情が強いのでなく、理性が脆弱なのです。理性さへ発達すれば感情も正しく豊かになるでせう。我々や我々の周囲では、理性が貧弱な固定へとどめられ抑圧されてゐるために、感情もまた狭隘で、固定的で、貧弱で、動揺し、卑小なのです。こんな風な頼りない低級な理性と感情とでは、之からの真に激烈な世界史的現実を正しく生き抜くことは不可能です。

この頃つくづく思ふことは、現実とたたかふことと、個別的自我と普辺(遍)的自我との統一と云ふこの二つのことです。現実の不合理、虚偽、不正、と誠実に不屈にたたかつてゐる時にのみ、人は生きてゐると云ふに値ひするのであり、まさしく前進し、成長し、生き生きし、人間らしく見えます。戦ひに於て人は、その人間的資質を緊張させ、発展させ、その能力を発揮し、自信をもち、自由であり、魅力もあるのです。戦ひをやめた人間、戦ふ論理を知らない人間、現実に甘えてゐる人間は、卑小であり俗物です。

所で現実の不合理と戦ふと云ふことは、別に云へば、個別と普辺との命がけの結合努力である。不合理は常に個別の中に生成し、その現実的個別の不合理を歴史的普辺への統合の中で克服することがたたかひなのです。そのことは不断の前進であり向上である。戦ひをやめるとは、個別への自足的安住であり、個別への自己満足的停滞である。それは現実の不合理との妥協であり、それの受容であり、或ひはそれに対して眼をふさぎ無感覚になることです。思想も学問も芸術も道徳もすべてしかり。それらが不合理と化した現実とたたかつてゐる時にのみ世紀をさへ越えた光茫(芒)を発し、白熱し、生命をもち、偉大であるが、それをやめた時は、俗流になり、卑小になり、形骸化し、自立し得ずして時の権威へおもねる。封建中世の道学、宗教、教権主義との戦ひに於てこそ、近代的思想は成長し、飛躍し、歴史の肉になつた。個人生活も同様。

だが普辺とは個別的現象の奥にある本質であり、現実的個別をとほしてのみ存在する。それは凡ゆる偶然的現実を通じてのみあらはれる現実の必然的な法則である。それ故、普辺は個別の広汎な深い認識観察によつてのみ把握出来る。いはば、理性の高度な活動、思惟の緊張によつてのみ把握出来る。ただ身体でたたかふだけでは、普辺と云ふものを正しく把捉出来ないし、従つて個別と普辺との真の統合に達し得ない。だからこそ個別と普辺との結合努力は人間の全認識力、全精神力、精神の全面的運動を要求するのである。自己批判も常に社会的人間関係の中での自己批判、普辺乃至歴史との相関関係に於ての自己批判でないと、単なる自己弁護、妥協、裏返された自己満足でしかない。普辺は歴史は常

に運動し前進する。小さな個別の中に停滞してゐるとすぐとり残される。
勉強とは、個別的自我を不断に普辺へ結合させ、普辺的自我を個別の中に、自分の血肉としてとらへ、さう云ふ交互作用的努力である。丁度生命現象の基礎が新陳代謝であり、新陳代謝とは同化作用と異化作用、すなはち客体の主体化と主体の客体化との交互作用であるやうに。かくてこそ勉強は、現実理解、現実認識となり、現実的行動の指針をきたへることになる。個別と普辺、現象と本質、偶然と必然、之等の対立物の斗争のディアレクティク。
あせると云ふことは現実の戦ひを観念的飛躍の中に見失ふこと、観念の中に現実の戦ひの足場を失つたことの告白である。人はあせる時、戦ひをやめてゐるのである。丁度、愚痴が戦ひでなく敗北の甘受、いや戦はない所に敗北もあり得ないなら、自己の劣弱の甘受、そしてその甘受の排泄物であるやうに。僕もこの頃までの自分の生活を貫いて来たあせりの不健全を反省する。あせりは目的の手段に対する優位、観念的状態の現実的過程に対する優位を意味するが、実際には手段こそ目的より優位するのであり、過程こそ状態よりも大切なのである。この世界観は、我々の七年乃至八年の交友、恋愛、結婚の体験から得て来た倫理であり、ここにこんな風に書くことは、あなたにとつても蛇足でせうが、それにも拘らず現実にはそれを忘れがちである。世界観がきたはれてゐない証拠であるだけでなく、戦ふことより妥協すること、戦ひをやめることの方が楽だからでもある。このあせりから、あなたとの生活を混乱させたのであるのに、そのあせりを之までも、時局のせいにのみして、反省するところなかつたのを恥ぢます。あせりとは自己の無力なり劣弱の内容なりの裏返しにした表白である。裏返しにしてゐるだけに一層有害だ。せつかちもあせりも同じ。
あなたもこの点注意し始めてゐるらしいのがうれしい。我々のやうに資質が小さく、欠点多い卑小さにある人間は、何にでもその小さい個別から抜け出せず、せつかちであり、よくあせる。警戒が必要。対人関係でもちよつとした日常話題でも、勉強でも、すべて同じ。
さて今日は、この分室の人物紹介をしませう。
全体で八人。二階に二人、下六人。下の六人の中四人が男（英研）、二人が女。
二階は分室長安間氏が上北沢へ専属になつて以来は、此の六月末にここへ来たNKと云ふ、元の関西大学の歴史の教授と僕と二人。N君、昭和八年京大西洋史卒、三十五、六才。大阪の人、八高出身、平野朗の同級生。ツルの先輩で、彼の売り込みでは入つたのです。芦野氏が僕に見せた履歴書には、之まで発表した論文とホンヤクとを一ならび陳列して、佐々木部長の履歴書でないが、附録一枚余分についてゐました。論文はランケとかディルタイとか片々として統一ない

が、ホンヤクは上田君の訳したドイツ経済史（創元社）。上田君によれば、経済学を知らん人らしいとのことでしたが、そのくせ本人は一種の経済史観の一派です。京都は歴史哲学派が支配的で、彼は異分子的であり、いつも「先輩と大論争をやる」さうです。見た所オリジナリティが乏しく、村瀬君型のアカデミシアン。学問を生命とし、昨年も「こんなに文化を圧迫する国に居らねばならぬのだらうかといのちがけで考へて、やはり居らねばならぬと結論した」と女の子に云つてゐました。学問を生命とするのはいいが、学問をふりまはしすぎるので、上田君などもからかつてゐる。見た所体格はいいが、二度応召して二度とも腎臓で即日帰郷。体格がいいだけに（見かけだほしにしろ）食べることに僕よりも熱心で、食べ物を探すことでは僕なんか呆れるほど強引で騒々しく、野菜を買ひに行つても農家の裏から物置きまでづかづかキョロ〳〵は入つて行き、「なすびをとつて下さいよ。キウリないかな、キウリ。何でもいいよ、つけものなくてもう弱つてるんや」などとおかみさんであらうが誰であらうが、相手にまくし立て、トマトなどはまつ先に自分で大きくよささうなのばかりかごへつめてはかりにかけて、包んでしまふと云ふ人物。

今日も買ひ出しの畑道を歩きながら八木君が、「Nさんはよく食ふんですな」と思はず温厚人に似合はぬ皮肉な調子になつて云ふと、「うん、よく食ふね。何ぼあつても足りんね」と自分でも率直に認め、「大阪で家が近くやつたから米でも何でもいくらでも持つて来れたもん困らなかつたんやが、東京へ来るとハラ減つてかなはん」「体格もいいからね、体力もあるんでせう。身体の欲求が強いんですな」と云ふ八木氏は五尺一寸十一貫と云ふ小柄。「だけど身体の欲求やと云ふたかて、食ふことだけや。ジンリッヒなことは僕は余り強くないね。僕みないな男の妻は不幸やろな」。之にはちよつと返答に困つてゐると、「僕は結婚して半年の間、二階と下とにフラウと別々に寐ましたよ」「どうして」「うん、僕が学問を生命とすると云ふことをフラウにはつきり知らせたんや。友達は不思議や云ふたり、本当にしなかつたりしたもんやけどね」「ふうん、そんなこと、よく出来ましたな」「そりや見合結婚だからだよ」と僕。「併し僕も見合結婚ですが、一年間は本も買へないほど、自分の全精神全肉体を――」「ささげましたか」「まあさうですな。併しそれにしてもNさんのやうなやり方は不賛成だ。何だか妻君が侮辱されてゐるんみたいですな。そんなくらいなら結婚なんかしなければいい。女中か何かやとつて飯をつくつてもらふといいでせう」「さうなんだよ、N君のみたいのは便宜結婚と云ふんだ。下宿してると病気の時困るから、まあ結婚したくなると云ふ。そんな学問と人間関係とが結びつなかいやうなのは、学問の方も人間関係の方も本当のものぢやないんだよ」と生意気なのはムロン僕。少し強く云ひすぎたと思つたので、「だがまあそれは若い時の気取りだらうね。僕は結婚するが他のやつみたいに性慾なんかで結婚するんぢや

ない、あくまでも学問のための便利上するんだ、と云ふんだらう。若い時には凡ゆる形で何とかいばらうとするもんだからね」――とまあかう云つた人物。

彼の第二の特徴は、人の月給を実に無遠慮にききただし、自分のと比較し、家賃をしらべたりすると云ふこと。余り月給にこだはるので、「君はやつぱり大阪人だね。人の月給のことなんかさうきいたり気にしたり、くどくど話題にしたりしなくていいぢやないか」と思はず僕がカンシャク起すと、「いやあ、東京では皆どの程度でやつて行けるか知りたいんでね」と、さすがに毒気をぬかれてベンカイする。さうかと思ふと「あの本室で僕の机の向ふ[3]側で一番ギャア〳〵やかましい人、あれ何て云ふ人ですか」「ははーん、U君だな。UTて云ふんだよ」「あれ一番うるさいね。ほれに自分の綜合所得税がいくらいくらや云ふて、大きな声で自まんしてるんみたいやけど、何だか云ふこと一番汚いね。金のことや何を食つたて云ふことや人の悪口ばつかり云つてる。ボクも悪口云つてるみたいやけど」などと云つてゐます。要するに可もなく不可もなく、人物としては押しの太いのと強引なのとを除けば、むしろ好人物で悪意の持てない方だが、頭もはげかけてゐるくせに人間が甘くて、アカデミズムに自足安住してゐる自称「中堅学究」。仕事は早いし、調査会には合つてゐるでせう。ドイツ史専門で歴史部は僕とこの人と二人。

八月十一日、晴。

今日も暑かつたが、風が少しあつたので、昨日のやうなことはなかつた。日中卅三度。

今朝小包を受取りました。いろいろと御心づくしを有難く思ひました。リンゴも久しぶりでおいしく食べましたが、モツタイないので三つの中二つは、上田君の子供へおみやげにして夜持つて遊びに行きました。上田君も大いに感謝してゐました。二人の子供のいいお父つちやんです。

九日付お手紙拝見。雨は相当ひどかつたのですね。身体が悪いのはどこか悪いのですか。注意して下さい。僕の方はジャガとなすとの毎日でも別にやせもしないし、元気なものです。代用ココアは今一カン半分ぐらい[4]使つたのがあります。粉のヤミでもやりたいのですが、中々うまく行きません。一人で水と火との自由でない自炊には、メリケン粉と大豆と芋とがありさへすれば、最も簡単に行きます。酒やビールを之等とかへるサンダンをしてゐるのですが、やはりむつかしい。

昨日のつづきの人物月旦。余り面白くないでせうが、之等の人物は之からの僕の手紙に出て来るでせうから。

階下の英研の一番古くて一番年かさなのがＴＹ君。ここへは昨年夏頃は入つたのですが、三十七才ぐらい。昭和六年東大経済学部卒。元調査聯盟かどこかにゐた人です。市川□三君をもつと眼つき鋭くトゲトゲさせた感じ、そのくせ口を無邪気な風にあけてゐる。カマトト式の所がある。左腕が畸形で手首がない。少し前まで二十貫あつたのが十三貫にやせたと云ふ。ここの分室長代理で事務的なことを一手でやつてゐます。

人物の内容はよくわからぬ。話すことでもつき合ひでも、カマトト式の所が僕達を警戒させ、一定の所以上は進まない。ディレッタントで本やレコードは多方面に集め、音楽会など欠かさない。話してもつき合つても魅力がないので、誰も深く交はらない。官僚的で下の者に高ビシヤで、上に対しては下の者のつげ口をしたりする。殊に女の子に関してそれが甚しいので、女の子は極度に嫌つて、やめたいとか二階へ来たいとか愚痴や不平が絶えない。人間はまじめだし、教養もあり、紳士の外観（片腕のないと云ふことで相手に不快感を与へるのを補ふやうに、非常にオシヤレのやうです。ヒゲのソリあとも毎日アオ〳〵とし、服装も目立たぬ乍らシヤンとしてゐる）も整ひ、仕事もやり手の方でコチ〳〵の堅人に見えるが、年の割りに対人関係にマサツを多くし、ゴタ〳〵を起しケンカもする。どうもカンシヤク持ちで神経質でエゴイストで、結局俗物なのでせう。

次に八木毅君。この分室或ひは世界経済の中で、話すに足る僅かな人間の一人。之までよく僕の手紙に出て来たでせうが、僕ともここでは精神的交渉の一番深い人物、いや唯一の人物。Ｎ君と同じ昭和八年に東大英文卒。三十五才。元外ム省にゐて、昨年秋にここへは入つたが、印度を受け持たされ、「僕はインドのことも経済のことも何も知らないのだから」と、こつ〳〵一生ケン命に勉強して黙々としてゐるため、経堂へ来るまでは殆ど話したこともなかつた。外の人とも殆どはなさない。それでは人嫌ひなのかと云ふと決してさうでないし、また無口なのかと云ふと大いに談ずる人。小柄で物を云ふ時とか笑ふ時に、顔の半分が不均衡に動かないと云ふ妙なくせ、或ひは神経系統の欠陥かがあつて、之が彼を無口にしてゐるのかも知れないが、本質的には彼は大人なのであり、僕のやうに相手の見さかいなしに、せつかちに、自己表出の稚拙な衝動に支配されないのでせう。自ら自分が神経質でいけないと云つてゐるが、そしてたしかにこの年令のインテリゲンチヤに通有の強情な自意識はあるが、また自分でよく感情に囚はれて人を容れる所、人の意見の正しさへすぐ反応するところがなく、自分でこれはまちがつてゐると思ひながらつい従来の自分の意見に固執していけないと、よく告白してゐるが、それでもそれらの欠陥は僕のやうに露骨に出ないし、何と云つても僕なんかよりはるかに大人です。僕とは一番議論をよくするし、世界観もちがふけれど、共通する部分はずい分あり、お互ひに相手の誠

実さと理解力とを信頼して議論出来るので、「一夕飲み乍ら思ふ存分やりたいですな」と云ふ程楽しみな議論です。この頃、後出の新人がは入つたので、少し前のやうに帰る時間も忘れて熱中するやうな論争はやらなくなつたが、始終僕が下へ行くか彼が上へ来るかして最も多く話し合ひます。口は重いがユーモラスで、何の話でも必ず「僕の妻君（細）（サイクンのイに、何とも云へない愛情のこもつたアクセントがある）が――」と出ないことがないので、Aと云ふ女の子に「八木さんの奥さんは幸福ね」「どうして」「だつてあなたのおはなしに『僕の妻君が』と出ない話はないぢやありませんか」「いやあ、そいつは――」と云つたいきさつがあつて、しばらくは注意してゐたやうだが、間もなくいつものやうに、顔の半分でにこやかに「僕の妻君が」と云つてゐます。俳人で芸術についても合理主義的に考へ、理論的教養は不充分だが、感受性も批判力も立派。歴史をよく知らないために芸術至上主義的傾向からぬけ切れず、それが二人の論争の種になるが、英文学以外では僕の方がよく読んでゐる、と云ふより、僕の方が自分の論拠により多くの文学作品を利用出来るし、歴史を彼よりは知つてゐるところ多いため、結局僕の議論を受け入れる結果になる。伊予松山の産。長谷部氏、浅野君の同郷人で、似た所ある。反アカデミズムの熱情家。あなたも友達になれる唯一つの人。

次はこの七月、竹中君と入れかはりで来て、竹中君が意味あり気に紹介して行つた慶応ボーイの堀江君。竹中君の後輩で、ここでは男で一番若い。頭はよささうで、我々の昔読んだ本もよく読んでゐ、独ソ戦の戦況を気にし、政治的情報にも敏感。おひるに必ずのこ〳〵上つて来て、「ニュース聞かして下さい」とラジオにスウィッチを入れ、畳の上にごろりと仰臥する。五尺一寸ぐらいの快活なボッチャン形。半ズボンで、元は株関係にゐたらしいが、電話が非常に多い。時々話しに来ます。気の利いた都会人だが、少し行儀が悪い（足を机にのせたり、寝ころんだり）。

もう一人の英研は大阪高校出身、東大英文昭和十三年卒、但し年は三十五、六才。七月中旬には入つた新人。元は明大講師。「典型的大阪人」ださうです。色白で、卑屈なジョージ・ラフトと云つた顔つき身体つき（五尺二、三寸で猫背で身ぎれい）。アララギ派の和歌をもて遊ぶ。八木君の後輩だが、上の方の伝手では入つたものであり、英研へは入るについて、T氏の横車でごた〳〵があつたのです。僕とも一番接触少く、人間的魅力も最も少い。

N君とM君ともう一人、後出の女の子A嬢と、大阪人が三人そろつたのですが、その結果大阪人なるものの特徴が実にはつきりわかつて来ました。大阪人と一口に云ふのはいけないのですが、まあ所謂大阪人の特にインテリゲンチャの臭みが、この三人に共通してゐます。やさいや食ひ物の獲得に実に強引でエゴイスティクで鉄面皮でさへあること、人の月給を無遠慮に調べ、N君は自分のを云ふがM君は自分のをかくす。そして月給の高で人の価値を計量するやうな顔を

する。そのくせインテリ意識が強く、「私立大学なんてつぶしてしまへ、あんな頭の悪いカスばかりみたいな学生を、ようあれだけあつめたもんや」などと云ふ。二人とも和歌を作るが、俳人で芸術に一家言をもつ八木君も僕には「N君は和歌のマス・プロ工場ですな。余り感心するやうなのは一向ないが、実に沢山作る」と半ば軽蔑まじりの感心をしてゐるほど。（三十五、六のインテリゲンチヤが揃ひも揃つて和歌俳句をもてあそぶのは何か理由があるのかしら）。あとは女の子二人、一人はA嬢と云ひ、廿七か八、神戸のミッション女専を出て、武信和英辞典を手伝つたのが自慢で英語を得意とし、我々の話題へも始終英語をまじへつつ割り込んで来る。阪本君の妻君の学校友達で、彼の紹介で昨年二、三月頃は入つた。寸づまりだが女セキトリと云つた肥り方で、股ずれして困る風な歩きかた。N君がよくまねをする。昨日も僕の所の長椅子（？）でもう一人の女の子臼田嬢と涼んでゐながら、自分の口ヒゲを抜いて「こんなに長いのがはえるのよ」と云つてゐた。浜田恒一は彼女を「ウサ公」と呼ぶ。肥つた長顔で眼と眼の間が割合はなれてゐる。生理的不快を覚えるやうな媚び笑ひや肩すくめをやつて、「何だあれや」と大分評判悪かつたが、他方、運ちやんなんかは「Aさんて、ちよつと可愛い顔した子かい」と云つてゐる。

T君が昨秋「あれをどこかへやつて外の人を入れて貰ひたい」と例の強引さでごねた。当のA嬢まるで「ウサギ」のやうに、いろんな批難に対してはトボケて、一向平気で生意気な風な口をきいたり、人の話へわりこんだり、媚び笑ひや嬌声を発したり、上田君に「うるさいぞ」とどなられて肩をすくめたりしてゐたが、実はアパートへ帰つて、誰に侮辱されたとか云つて口惜し涙にくれたりしてゐたよし。その後竹中君、阪本君がうんと手きびしく直言して、この頃大分よくなつた。まだ媚び笑ひや馴れ口のくせをやめないが、また人の話へ割り込みたがるが、多少大人になつたらしく、親切な思ひやりのあることもするし、気を利かして女らしく行動もする。英語もよく出来、本もよく読んでゐるらしいが、鼻にかける傾向がどうしても抜けない。物資は実に豊富に持つてゐて、之も人を羨しがらせるのが暗に得意らしい。だが物わかりはいい。N、M両君の大阪人が来てから、大分元気になつてわざと大阪弁を使ふのは多少「いやらしい」。最後の一人は臼田黒白子と云つて、アメリカ帰りのやうな発音をするが、之はどうも舌足らずか舌が長すぎるか、今まで甘えすぎたか、何れからしい。津田出の廿四か五才の、男の子のやうな身体つきの背の高いスポーツ・ウーマン式の女の子。もう少ししつかりして甘えた所がなければ、そして小さい自我意識がなければ、魅せられた魂のジョルジュと云ふ女の子に近かつたかも知れない。この六月には入つたが、津田出と英語の出来ることと村松正俊の助手をしたことと、心理学や哲学をかじつたこと（兄弟多く、哲学出の兄を持つたりして）などを得意がつてゐる甘やかされた人間。

結局自分のことばかり考へてゐるところがある。人が自分を何と思ふかを。だからT君に意地悪されては（例へば外の本を読んでゐると必ず雑用を云ひつけられ、云々）愚痴を云ひに来、下にゐるのは堪らないから二階へあげてくれとか、やめたいとか、時々泣いたりする。僕はこの頃、甘やかされたり、自分を甘やかしたりする人間にがまんがならず（自分もさうなのだが）、「君たちは甘すぎる（A嬢まで同じやうに愚痴をこぼす）。T君が君達に害心をもつてるのでなく、ただあんな神経質な、エゴイストにすぎないのだから、いい加減にあしらつておくか、自分で直接云へばいいのだ。大きな問題ではない。もつと外の所では、比べ物にならぬ程きびしい人間関係があつて、皆それと戦つたり敗れたりしてゐるのだ。君達のはまだ甘い。人に訴へるほどのことぢゃなささうだ」とつつぱねるやうに道学者気取りの説教をする。だがその臼田嬢もこの頃少しまじめにいろんなことを考へるやうになり、本を借りに来、「イリン」や「娘インディラ」を読んでいろんなことをききに来る。僕が自分乍らいけないと思ふほどのせつかちさでづけ〳〵云つても、アパートへ帰つて案外よく考へてゐるらしい。大金、西山嬢より教養はあるが、それだけに柔軟さがない。だがまじめに聞くからまじめに答へてゐる。判断力はありさう。資質も劣つてはゐない。

所がこの女の子が、自分のアパートに津田の先輩がゐることを知つたので嬉しくて仕方がないと昨日も僕に云ひ、その先輩は大先輩で三十四、五才だと云ふから、「ぢや森井さんなんかと同じ頃かな、それとも中島桜さんの頃かな」と云ふと、意外にもその当の森井篤子さんだつたのです。森井さんとは中島君の昔の仕事仲間で、あなたにも話したことあつたでせう。で、臼田嬢が早速昨日アパートできいたら、やはり僕のこと覚えてゐて、今朝も僕へ手紙を書きかけたのだが、それよりウィーク・デーにここへ遊びに来て、直接会ひたいと云つてゐると、臼田嬢が報告に来ました。どこか出版屋につとめてゐるとのこと。「早速『女一人大地を行く』を貸していただいたわ」と云つてゐました。（こんなことを書くと以前のあなたなら気をまわす怖れもあるが、さう云ふ心配を絶対にしないやうに。でないと僕の生活報告はうそになるし、また僕はあなたにさう云ふ心配をさせない。）

大分悪口ばかり書いたが、之等の人々の欠陥の夫々が、大てい僕自身に認められることなので、つくづくかう云ふ歴史的時代によつてつちかはれ、しみこまされた人間の性格的負担の深さにおどろいてゐます。そしてすべてに共通な第一は、八木君を除いて皆人間が甘いことです。人間が甘いとは、戦ひの状態にないこと、普辺的自我への努力のないこと、個別への安住自足と云ふことです。我々もまた大いに反省すべきですね。では今日は之でおしまい。

謙一

謙一から幸子あて（一九四四年八月一二～一三日の記）

八月十二日、晴。
相かはらず暑いが、一昨日や昨日よりは楽。立秋をすぎて夏□峠をこしたのかしら。鎌倉や逗子の海岸では海水浴が禁ぜられました。海の家も行かう〳〵と思つてゐる間に。みつちやんどうかしら。安産であればいいが。この暑い時のお産はずい分苦労でせうね。空襲の怖れも考へねばならず。島村君へは数日前電話でみつちやんのお見舞ひを云つておきました。
今日は栄養豊富。朝は配給のアサリのみそ汁（みそ汁は殆ど先月の信州以来）。ジャガ、ナス、キウリはいつもの通り。昼はジャガとキウリだけでしたが、夕食はサメ（配給）の煮つけ、ジャガ、ナス、キウリ、それにトマトと玉蜀黍。トマト、ナス、玉蜀黍は今日の買ひ出しの収穫。

八月十三日、晴。
少し風があつたが、やはり暑い。それに此の頃睡眠不足で眠い。朝、ジャガ、ナス、トマト、キウリの食事をすました後、掃除し書棚を片づけました。それから四十年とアンチ・デューリングを読み、独立戦争を又書き直すべくいろ〳〵の角度から構想し、昼は朝のジャガとトマトとフクシンヅケで簡単にすませ、寐ころんでおひるのニウスと、シューベルトの交響楽とをきいてゐる中にうと〳〵し、ふと気がつくと二時半でした。便処へ下りて行くと玄関にあなたの鳩の便りとふうちやんからの本とが来てゐました。鳩の便りとは僕のシヤレです。昨日、手紙受けへ手紙が来てゐないかと見に行くと、肝腎の僕への手紙はなく、N君あての色封筒が来てゐたので、それを皆のゐる所で手渡して「そらN君。鳩の便りだよ」「何やて」「ダヴ・レターだよ」とシヤレて、一同しばし笑ひを収め得なかつた傑作シヤレです。僕が余りシヤレを云ふので、ソウ発性痴呆症と称されます。松沢病院が近いせいか精神異常が多く、ヒポコンデリーやヒステリーやソウ発性痴呆症などがゐます。
日課の成績の点数は良心的につけて、一々その理由をつけておくとよろしい。学問でも芸術でも、創造的生活、創作をする生活には、真の同情者（盲目的なそれでなく、真の理解者同情者）が必ず身近かにゐることが望ましいことです。

何故なら、創造と云ふことは個別と普辺[補]との白熱的統一努力であり、さう云ふ時は自分の書いてゐる個別が、果して普辺的意義、社会的意義があるかどうかについて、しつこく疑念がもたれ、創作過程の難関に出会つて全精神が極度に、まるで分挽[挽]の陣痛のやうに緊張ケイレンする時に、その疑念は最も深刻に食ひ入らうとするのです。さう云ふ時、その労作の真の理解者が身近かにゐて、全人類を代表しつつその創作の普辺的意義を云つてくれたなら、創作者は丁度分挽の時よき産婆を得た如く、その陣痛に耐え、ものをうむのです。さう云ふ過程から世の中の傑作も、恐らく創作者の資質の限界を時には越えてすら、うまれるのではないでせうか。

人はさう云ふ伴侶的理解者として、師をもち、友人をもち、また妻をもつ。そしてその伴侶的理解者としての個人を通じて、普辺的人類、社会への結合努力を振起する。高村光太郎が詩作に於て常にその妻君[細]への愛情を原動力にしたとは、そのことを云つたのでせう。いはば全人類、全社会と直接的なつながりに於て、社会との直接的な解放された相互理解に於て存在する、とは云へない現在の我々のおかれた制約的人間関係の場合、個人としての創作者と、その創作物を受けとるべき社会なり人類なりの普辺との結合に、媒介が欲しいのであり、友人なり妻なりの伴侶的理解者は、その媒介に当るのです。しかもその媒介たるや受動的なものではなく、産婆なり槓杆なりの積極的機能をなすべきなのです。

では伴侶的理解者は、創作者と同一の知的水準に立つべきか、必ずしもさうでなくていい。丁度批評家が、自分で創作出来なくてもいいやうに。またよき鑑賞者が常に創作者と同じ水準に立たなくてもあり得る如く。むしろ伴侶的理解者は、社会の一般的知的水準の感覚を失つてゐないことが必要です。何故なら創作者は個別への没頭の過程で、一般的知的水準への感覚を失ひ、独善的になる危険が多いから。ただ伴侶的理解者の第一の資格は、創作者の創作努力への真の同情、真の愛情、真の結合です。盲目的なでなくあくまで理性的な判断を忘れない結合、いな判断を通じてする結合です。それ故妻こそは、性愛によつて結ばれた妻こそは、かかるものとしての伴侶的理解者の最大の適格者です。

あなたはわからないとかむつかしいとか云ふ。だが僕がききたかつたのは、そのわからなさ、むつかしさの内容だつたのです。どこがどうわからないか、どこがどうむつかしいか。それを言表することは必ずしも容易でなく、くり返し読み精神の全緊張を以て理解把握しなければならない。理解もまた一つの苦しみ、一つの努力でなければならない。どこがわからないかを言表する程度の理解すら。そしてそれをあなたからきき、それをあなたに説明し、さう云ふ交互作用が伴侶的理解者と創作者との関係なのです。その場合必要なことは、伴侶的理解者が創作者の創作努力に対して熱情をもち、結合して行くこと、それこそが創作者の最も力強い精神的支柱になる。それは創作を一人でやるのでなく二人で

やることであり、二人がそれによつて前進することでせう。

かう云ふことが、あの頃僕にもこの程度にでもわかつて、この程度にでもあなたに説明出来たら、あなたもまた協力してくれたのでせう。身体の限界なりに。ところがその頃の僕には、ただあなたへ欲求を向けるだけで、説明も出来ずにただいら〳〵して、「女房の一人や二人死なうと生きようとそんなことにかまつてゐられない」と云ふ風な暴言になつたのです。自分の苦しい労作を、その社会的歴史的意義を、自分の個人生活を全的に否定してもいいほどに大きく、断乎と承認したい僕の欲求を希望をその暴言に乱暴に含めて。そしてあなたの無関心がまるで僕の仕事、労作の普遍的意義の否定を意味するかのやうに感じ、それへの乱暴な反撥として。（あなたはまだ僕の言葉の一つ一つにこだはつて、それを云つた時の、或ひはさう云ふことばにあらはれた僕の心の本当の状態を正確に理解することが不充分のやうです。僕もさうかも知れないが、お互ひにもつと内面的理解を心がけ、外面だけで誤解し合つたり早がてんし合つたり、傷（つ脱？）けあつたりしないやうにしませう。）

所で僕の本当の仕事は、南北戦争の歴史を書くことです。今度のプランテイションは、本当の仕事の序論でしかないのです。そして本当の仕事は、今度の戦争体験をも含めてもつと資料を集め、自分の歴史眼をきたへて、今度こそあなたの伴侶的理解を得つつやつて行くつもりなのです。それで、信州へあなたと仕事の材料とをそつくり疎開したのです。あなたを自分の創作の伴侶的理解者、いはば一つの手段と見ることを、あなたは自分の人格性の無視として怒るでせうか。だが、僕が伴侶的理解者と云ふものを人格性の欠除（如）に於て見るどころか、逆に全人類をその中に含んだ最愛の個性、人格性の最高度の承認に於て見てゐる、と云ふことを知つて下さい。そして真の手段はディアレクティクに於て、目的よりも優位するのだと云ふことも（伴侶的理解者にふさはしい健康と理解力とを準備しておいて下さい）。

だが戦争は僕のさう云ふ個人的企図に考慮なしに進み、我々をその企図の実現どころか着手へすらいたらせないで、我々の生活をふみつぶしてしまふかも知れません。それが現実であり、さう云ふ現実とのたたかひが、我々の創作をも含めての全生活なのであり、そしてたたかひはいつでも勝つとはきまつてゐない。それどころか個別的なたたかひは、之まで大部分玉砕だつたのです。併しその個々の戦斗的生活者の全身全霊を以てする誠実なたたかいこそが、そのたたかひから流した血こそが、その血の中でうんだ未完の創作こそが、歴史の一つの推進力に資して来たのではないでせうか。丁度一人一人の兵士の血が、歴史を勝利へ現実にもたらしつつある如く。我々の血もまた歴史の流す鮮血の一滴でこそあつてほしいもの。さうしてこそ凡ゆる未完成もまた生きて歴史の血になるにちがひない。かくして僕もまた普辺への